

大子町に移住した鍛金作家

ともつね
友常 みゆきさん (43)

創作活動に好環境

「アートによるまちづくり」をテーマに、大子町地域おこし協力隊として活動。4月末に任期を終えた後も、高校やデイサービス、学童保育などで美術を教えながら生活費を稼ぎ、鍛金作家として創作活動を続ける。

「協力隊で多くの人に出会い、町民の心の温かさに触れ、町に住み続けたいと思った。鍛金はハンマーで金属をたたくため、大きな音が出る。住居は隣近所が離れているので、制作に専念できる」。大子町での暮らしぶりを笑顔で



話す。

協力隊としての3年間、県北芸術祭では現場スタッフと

して活躍。作家と町民、来訪者のパイプ役となり、円滑な運営をサポートした。「大子

町はアートへの理解がある。

暮らしの中で、アートを楽しむ雰囲気があるのに気付かさされた」と語る。袋田の滝が「恋人の聖地」に選定された時は、町の鳥「オシドリ」の2羽が向き合い、上部にハート、下部に無限のマークができるモニュメントを制作した。

県内外で個展やグループ展を開催する場合、大子町在住を強調。知り合いの作家に移住を勧めることも。「協力隊を卒業しても、町や町民に貢献できる活動を続けたい」ときっぱり。

(蛭田稔)